

災害時における「救護病院」指定
に関する協定締結式について

10月1日(火)、揖斐郡3町と岐阜・西濃医療センター西濃厚生病院(大野町下磯)は、災害時における救護病院指定に関する協定を締結しました。

この協定は、大規模な地震などの災害時に医療活動の拠点となり重症や中等症の患者の治療などを担う「救護病院」に西濃厚生病院を指定するもので、事前に協定を結ぶことで、災害時の円滑かつ早期の対応に備えるものです。

今回の協定締結を含め、今後とも災害に強いまちづくりを進めて参ります。

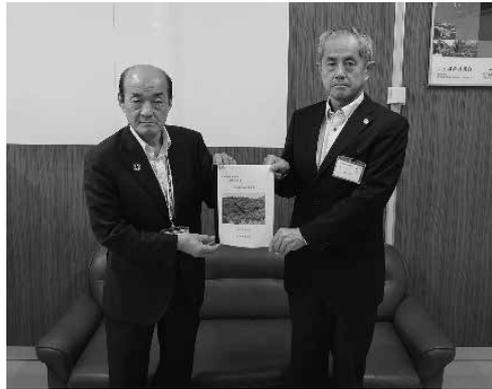


▲協定書に署名した、(右から)西脇病院長、宇佐美大野町長、岡部揖斐川町長、竹中池田町長

若松地内の治山事業実施を
岐阜県へ要望しました

10月16日(水)、岡部町長が揖斐農林事務所長へ、治山事業の要望活動をしました。

要望の内容は、8月の台風10号豪雨の影響で、若松地内にて発生した土砂の流出や大規模な山腹崩壊などの被害について、山地災害防止のため、治山事業の早期実施を要望しました。



▲【岐阜県揖斐農林事務所】額所長(右)へ要望書を手渡す岡部町長

「薬草文化の香る、ぎふコーラ」
岐阜県知事に新商品完成を報告

9月24日(火)、岐阜県庁で、ぎふコーラの新商品(ペットボトルタイプ)の完成の報告会が行われ、岡部町長とぎふコーラプロジェクトチームの3名が、開発コンセプトなどを説明しました。古田知事は、新商品を試飲した後「お手軽で飲みやすいので、若い人達も飲んでいただけるのでは。」と話しました。

伊吹山の麓で採取された4種類の薬草を使ったクラフトコーラの『ぎふコーラ』。今後、新商品を販売しながら、薬草文化を発信し、交流・関係人口の創出に繋げていきます。



▲ペットボトルの新商品を手にする古田知事(中央)

薬草の魅力めぐりツアー
を開催

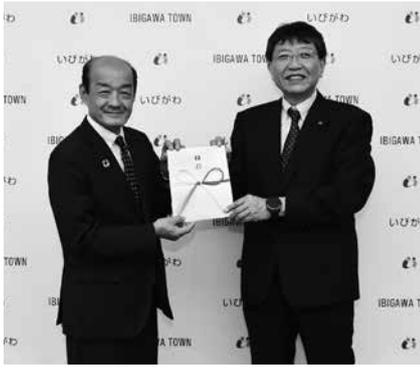
9月28日(土)、揖斐川町谷汲緑地公園で「薬草の魅力めぐりツアー」が開催されました。このイベントは「清流の国ぎふ」文化祭2024の関連イベントとして開催され、谷汲緑地公園内を散策し、薬草を採取するフィールドワークやクラフトコーラのシロップを作る体験を行いました。

参加者は、採取した薬草の匂いをかいたり、かじったりして「爽やかな香りがする」「スパイスになりそう」などと話していました。クラフトコーラづくりでは、岐阜県立揖斐高等学校生活デザイン科の生徒も指導者として参加し、グループで相談しながら、薬草をえらび、完成したコーラの飲み比べなどを行いました。

この体験を通じて、薬草の魅力を発信することができました。



▲クラフトコーラ作りを体験する参加者



▲寄附金贈呈式の様子
(右:大垣ケーブルテレビ五十川代表取締役)



▲寄附物品
(防災グッズ ソルピカ)

9月27日(金)に、有限会社川口水産様(福井県敦賀市)より、企業版ふるさと納税制度を活用し、防災グッズ ソルピカ(塩と水で発電するランタン)を物納いただきました。
また、10月11日(金)には、株式会社大垣ケーブルテレビ様(大垣市)より、企業版ふるさと納税として、寄附金70万円をいただきました。
ありがとうございました。

企業版ふるさと納税を活用
してご寄附いただきました



▲派遣認定書を受け取る生徒

10月4日(金)、揖斐川町役場で令和6年度中学生・高校生海外派遣事業派遣認定書交付式が行われました。
この事業は、マラソン交流を続けているアメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市に、町の将来を担う中学生と高校生を派遣し、現地の人々との交流を通じて、文化や歴史などを学び、国際性豊かな人材の育成を図ることを目的として行われています。
今回派遣される22名の生徒は、町長から派遣認定書が手渡され、研修への意気込みを語りました。
なお、派遣期間は、来年1月16日(木)から24日(金)までです。

中学生・高校生海外派遣事業
派遣認定書交付式



▲配水池周辺の清掃の様子

10月21日(月)揖斐川町内の水道工事店12社が、町内の水道施設の清掃奉仕作業を行いました。
毎年行われているこの奉仕作業、早朝からお昼まで、水道施設やその周辺の草刈を中心に清掃を行いました。
秋晴れの下、皆さんの協力によって施設および周辺はきれいに除草され、見違えるようになりました。
清掃奉仕作業に参加された皆さん、ありがとうございました。

水道を美しく
「清掃奉仕作業」



▲報告の様子

10月2日(水)、揖斐郡森林組合が、株式会社大垣共立銀行および株式会社バイウィルとJークレジットを活用したカーボンニュートラルに関する連携協定を結んだことを岡部町長へ報告しました。
Jークレジットとは省エネ設備の導入や再生エネルギー利用による二酸化炭素などの排出削減量や、適切な森林管理による二酸化炭素などの吸収量を「クレジット」として国が認証する制度で、この協定により、揖斐郡森林組合が管理する森林の二酸化炭素吸収量を国が認証し、発行されたクレジットを、バイウィルを介して大垣共立銀行の取引先などへ販売することとなります。

カーボンニュートラルに関する連携
協定締結の報告を受けました

**セントジョージマラソン
派遣団体験報告**

10月2日(水)から10月9日(水)までの8日間、いびがわマラソンで優秀な成績をおさめたランナーの皆さんがマラソン交流事業の派遣団としてセントジョージ市を訪れ、セントジョージマラソンに出場しました。
ランナーの皆さんからの報告書を掲載します(一部抜粋)。

■総合男子優秀ランナー

酒井 一さん

ハーフマラソンに参加し、タフなコースでしたが、雄大な景色と沿道の方々の声援を力に、楽しんで走ることができました。結果としても優勝でかざる事ができ、当日までサポートいただいた派遣団の方々やホストファミリーなど多くの方にその報告ができたことは、大変うれしく思います。

■総合女子優秀ランナー

武士 純子さん

セントジョージマラソンは走りごたえのあるアップダウンを楽しみました。ホストファミリーの温かいおもてなしと心遣いに感謝の限りです。共に過ごした日米の仲間との交流も宝物となりました。

■町内男子優秀ランナー

高橋 隆太郎さん

初の海外という事で不安が多くありましたが、ホストファミリーをはじめセントジョージ市の皆さんはとても親切な方ばかりで、初日から最終日までとても楽しく、とても貴重な体験を沢山させていただきました。またいつか招待してもらえよう頑張りたいと思います。

■町内女子優秀ランナー

高崎 美佐代さん

圧倒的な大自然に包まれながら走るの、とても贅沢な時間でした。ホストファミリーや現地のガイドさんは、終始おおらかで優しい方々ばかりで、言葉の壁を乗り越えて接していただき、ただただ有難かったです。人生後半で素敵な夢を見させていただきました。



▲セントジョージ市議場を訪問する派遣団

**セントジョージ派遣団が
揖斐川町を訪れました**

11月6日(水)～11月11日(月)の6日間、アメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市から派遣団が来日しました。派遣団は、セントジョージマラソンの成績優秀ランナーや地元の中学生など総勢23名です。今年マラソン交流33回目の年であり、セントジョージ市議会議員のステイブ・キャンプさんが派遣団の団長を務められました。ランナーとして出場した7名は全員完走されました。

揖斐川町滞在中は、町内のホームステイ先のお宅で日本文化に触れ、日本の生活を満喫しました。また、中学生派遣団の皆さんは、揖斐川中学校への訪問で、お茶会などの体験を行い、生徒同士の交流を深めていきました。



▲セントジョージ派遣団とホストファミリーの皆さん

**あたたかい善意
いびがわマラソンへ**

10月21日(月)、西濃建設(株)様より協賛金をいただきました。



他にも

(公財)田口福寿会様

イビデン(株)様

アピ(株)様

フィットイメージ(株)様

(有)揖斐川清掃様

(株)末永電気様

JAいび川様をはじめ、町内外の皆さまより多くのご協賛をいただきました。ありがとうございました。

